

「 個人の尊重と日本国憲法 これからの人権保障 」

～ きみたちは どう生きるか ～

本単元で育成する資質・能力

(教科) 見方 (共通性・多様性) (学校) 主体性, コミュニケーション能力

- 1 日 時 令和5年10月4日 12:55～13:45
- 2 学 年 第3学年3組 (男子18名 女子17名 合計35名)
- 3 場 所 本館3F 3年3組教室
- 4 単元について

○ 単元観

本単元は、中学校学習指導要領（公民的分野）の内容C（1）「人間の尊重と日本国憲法の基本的原則」に該当するものである。現代の国家では国民に選出された代表者が治める代表民主制の仕組みであること、主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察・構想し、表現できることを通して、我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自治意識の基礎を養うことが内容Cのねらいである。

内容C（1）では、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配などのキーワードをもとに、基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本的原則について理解することが求められている。基本的人権の理念とは、人類が長い年月をかけて獲得してきた努力の成果であり、自由で幸福な人間らしい生活を願う人々にとって普遍的な内容である。本単元ではそれらを獲得してきた歴史や、人間としての善い生き方や豊かさとは何なのかを具体的な事例を通して学習する。物質的な豊かさがある一方で他者とのつながりが希薄だと言われる現代において、人権をめぐる様々な諸課題に触れ、「私ならどうするのか」を問うことで主権者意識を養い、内容Cのねらいが達成されるよう設定する単元である。

○ 生徒観

本学級生徒が8月に実施した「課題発見・解決学習に関わるアンケート」の結果が以下の通りである。

	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
1. 授業では、解決しようとする課題について「なぜだろう」「やってみたい」と思います。	<u>28.1%</u> (9人)	<u>56.3%</u> (18人)	12.5% (4人)	3.1% (1人)
2. 授業では、解決しようとする課題について、「たぶんこうではないか」「こうすればできるのではないか」と予想しています。	<u>21.9%</u> (7人)	<u>68.8%</u> (22人)	6.3% (2人)	3.1% (1人)
3. 授業では、課題を解決するために、進んで資料を集めたり、取材をしたりしています。	9.4% (3人)	40.6% (13人)	<u>43.6%</u> (14人)	6.3% (2人)
4. 授業では、情報を比べたり、仲間分けしたり、関係を見つけて、何が分かるのかを考えています。	<u>12.5%</u> (4人)	<u>78.1%</u> (25人)	6.3% (2人)	3.1% (1人)
5. 授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。	<u>12.5%</u> (4人)	<u>71.9%</u> (23人)	15.6% (5人)	0% (0人)

アンケート結果から、課題発見・解決型の授業に対して興味を持って取り組んでいる生徒がある程度いることが分かった。一方で、課題解決に向けて筋道立てて予想することはできても、解決するために必要な情報を選び、収集することに苦手意識がある生徒がいることが分かった。社会科の授業で継続して行っている、資料の比較・分類・関連付けをすることや、根拠をもとに説明することについては、学級の半数以上の生徒が肯定的な捉え方をしていることが分かった。

○ 指導観

昨年度より、単元を貫く問いと各授業のつながりを意識した習得ボードを用いており、習得ボードには単元の学習計画と、単元の評価規準（A基準）、単元課題（パフォーマンス課題）、毎時間のまとめのスペースを記載している。本単元でも、単元課題を解決するための知識・概念を各授業で習得し、単元の終末において、学習した言葉を用いて単元課題に迫る終末パフォーマンス型の学習活動にしていきたい。本単元の単元名である「きみたちはどう生きるか」という問いは、本単元の単元課題だけでなく、公民的分野全体を包括する、生徒の公民的資質を問う大きな問いである。今後の政治分野や経済分野、国際社会分野にも通じるこの問いを、単元の授業内で繰り返し投げかけ、生徒自身が自分事として社会を切り取る力が少しでも持てるように意識して指導していきたい。

本校社会科の授業では、視聴覚教材等を用いて「解きたくなる学習課題」の設定をし、展開に移る。スムーズに学習活動に入れるように、生徒の生活に身近で、興味を喚起する教材となるように工夫をしたい。また、展開部分ではグループでの協働学習を通して、「課題を解決するために、自分から進んで資料を収集すること」に苦手意識を持っている生徒の支援としていきたい。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後、全体へ発表させるスタイルをとっていく。

	資質・能力	意欲・態度			知識・スキル		
		主体性 (自己を認識する力、 自分の人生を選択する力)			コミュニケーション能力 (表現する力)		
授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）	レベル1	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 speak) ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	(聞く) ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問することができる。		
	レベル2	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 tell) ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	(聴く) ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	(やりとり) ○話を聞いて、内容を深めるために、質問ができる。		
	レベル3	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 talk) ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	(訊く) ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながら聞き、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	(やりとり) ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。		
	レベル4	やりたいことを自ら見つけ、分析し、(大人のカも借りながら)自分たちで実行できる。	少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。				

6 単元目標

- 社会の変化に伴って新たな課題が生まれ、人権の考え方が変化していることを理解し、一部の権利は国内だけでなく、人類普遍の人権に通じていることを理解する。
- 社会の変化に伴う新たな課題に対して、「わたしはどう生きるか」をキーワードに、効率と公正、個人の尊重と法の支配、多様性に着目し多面的・多角的に考察、表現することができる。

7 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
・社会の変化に伴って人権の考え方が変化していく中でも、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解する。	・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、多様性などに着目して、社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由について、対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、表現している。	・社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。

8 指導計画（全5時間）

教科・領域の本質的な問い

- ・変化の大きなこれからの社会で生きていくために、大切にしていく考え方は何だろうか。

過程	時間	学習内容	重点	記録	評価規準	資質・能力 (評価方法)
課題の設定	1	現代社会の特徴は何だろうか。 【ルーブリックの確認】	主		社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。	【見方（共通性・多様性）】 (記述分析)
単元を貫く問い（探究課題の萌芽）						
変化の大きな現代社会で様々な課題に直面した時、どんな選択をし、どう生きていくか。						
情報収集	2	産業や科学技術の発展と人権	知		社会の変化に伴って人権の考え方が変化していく中でも、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解する。	【見方（共通性・多様性）】 (記述分析)
	3 本時	情報化の進展と人権	思		対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、多様性などに着目して、社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由について、対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、表現している。	【コミュニケーション能力】(行動のみとり)

	4	グローバル社会と人権	知	○	社会の変化に伴って人権の考え方が変化していく中でも、民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解する。	【見方（共通性・多様性）】 （記述分析）
実行・振り返り	5	誰もが暮らしやすい共生社会に 【パフォーマンス課題】 「科学の進歩、多様性の広がり、情報化とグローバル化が進んだ現代で、新たに生まれている課題とは何か。その課題を解決するために大切なことが何か、あなたの意見を述べなさい。」	思 主	○	対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、多様性などに着目して、社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由について、対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、表現している。 社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。	【コミュニケーション能力】（行動のみとり） 【見方（共通性・多様性）】 （記述分析）

単元を貫く問いの終結

科学の進歩、情報化とグローバル化が進展した現代では、環境権や自己決定権、知る権利やプライバシーの権利など個人の人権を積極的に守る枠組みがある。また、個人志向が広がり、多様性が広く認められていく流れができていく。一方で、自分本位な考えからネット関連のトラブルが起きたり、世界の苦しい生活を強いられる人々について思いを巡らせることが不十分なので、効率と公正、個人の尊重と法の支配のバランスを考えながら、様々な主張を吟味し、自分なりの根拠で判断して意見を持つておくことが大切である。

【単元の評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）】

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	科学の進歩、情報化やグローバル化から生まれる新たな課題がある。これらの課題に対応するために新しい人権が認められている。多様性を受け入れていく現代の風潮の中で、新しい人権も受け入れられているが、法の支配と個人の尊重、公正と効率、国連など国際的な組織の動きとのバランスをよく見ながら、多様な視点の意見を聞いて、ひとつひとつの課題に、私ならどうするかを考えていけるようにしたい。
B（合格）	現代で生まれている課題は、科学の進歩や情報化、グローバル化などの社会の変化に伴って生まれている。これらの課題に対応するために、憲法に規定されていない新しい人権が認められている。多様性を受け入れていく風潮がある現代であるが、何でも認めていくという訳ではなく、多様な視点の意見を聞いて、ひとつひとつの課題に、私ならどうするかを考えていけるようにしたい。
C（乗り越えさせたい実態）	現代で生まれている課題は、新しい人権を広く認めていくことで解決に近づいている。世の中が大きく変化していく時には、新たな意見が主張されるので、多様な意見を受け止められるようにしていきたい。

9 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・情報の取り扱いについて、他の人に知らせてもよい情報と、知らせてはならない情報の区別を、新しい人権の事例に従って判断することができる。

(2) 本時の評価規準

- ・対立と合意，効率と公正，個人の尊重と法の支配，多様性などに着目して，社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由について，対話的な活動を通じ，多面的・多角的に考察，表現している。〔思考・判断・表現〕

(3) 準備物

- ・ワークシート，モニター，クロームブック

(4) 学習の流れ（2時間目／全5時間）

過程	学習活動	指導上の留意事項 (○) 予想される生徒の反応 (・) 支援を要する生徒への手立て (◆)	評価規準〔観点〕 ★資質・能力【評価方法】
1 課題の把握 [5分]			
導入	<p>①これまで学習した基本的人権についての復習をする。</p> <p>②授業内容の確認。 「知る権利」と「情報公開制度」について知る。公開される文書がぬりつぶされる理由について考える。</p>	<p>◇スライド・映像を見せる。</p> <p>単元を よく聞い</p> <p>◇単元の課題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知られると都合が悪い情報が記載されている。 ・何もかも塗りつぶされていたら不信感につながるかも。 ・よいことなのかよくないことなのかよく分からない。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>学習課題 情報化が進んで生まれた課題に対して，私たちはどうしたらよいだろう。</p> </div>			
<div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>ねらい 知らせてもよい情報とそうでない情報の区別が，事例を参考にできるようになる。</p> </div>			
2 課題の探究 [15分]			
展開 前半	<p>③プライバシーの権利について。 知らせてはならない情報とは何だろう。</p> <p>④インターネットでの人権侵害事件数の推移を見る。 プライバシーの侵害や名誉毀損とはどういったことを表すのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報 ・他人の情報を許可無く公開したり利用する。 ・個人情報を自分から発信して 	

		いる。 ・ネットを利用している間に情報が抜き取られ利用される。	
3 課題の解決 [25分]			
展開後半	<p>⑤インターネットへの写真や動画の投稿と共有について考える。</p> <p>個人志向や多様性を尊重する風潮があることに触れる。</p> <p>個人で考え、グループで交流する。</p> <p>他の人の意見に対して評価をする。</p> <p>どんな意見がグループで出たか全体交流する。</p>	<p>①実態（なぜ投稿をするのか）</p> <p>②課題（どんな問題があるか）</p> <p>③改善（どうあるべきなのか）</p> <p>④習得（わたしはどうするか）のサイクルで考える。</p>	<p>対立と合意, 効率と公正, 個人の尊重と法の支配, 多様性などに着目して, 社会の変化に伴って新しい人権が認められてきた理由について, 対話的な活動を通じ, 多面的・多角的に考察, 表現している。【ワークシートの記述】</p>
5 ふりかえり [5分]			
まとめ	<p>・習得ボードに振り返りを書く。</p>	<p>○単元を貫く問いを意識して, 本時で学習したことを振り返らせる。</p>	
<p>予測される生徒の考え</p> <p>情報化の進展にともなって, 公正な政治の実現ができるよう, 国民が国や自治体の情報を公開するよう求める「知る権利」が認められた。知る権利とは何でも知らせてもらえる権利ではなく, 誰かに不利益が生じる場合は公開されない時もある。個人に不利益が生じる情報は「プライバシーの権利」で守られるが, 近年のネットの利用者は, プライバシー侵害の件数に見られるように, 他の人の情報を無断で公開したり, ネット共有の楽しさから自分の個人情報を知らず知らずの内に公開しているので, 情報に対する危機管理をもっとしっかりしていかなければならない。知らせてもよいことと, 知られてはいけないことの区別をすることが</p>			
<p>生徒の振り返りの例</p> <p>・グループで意見交流した時に, 情報の取り扱い方について深く考えている人もいて, 自分がこれから SNS などネットを利用する時に気をつけたいと思った。</p>			

ICTの活用

思考を深める
学び合い

(5) 板書計画

単元名 新しい人権② **学習課題** 情報化が進んで、どんな権利が大切にされるようになったのだろう。

1. 【知らせてもよい情報】
「知る権利」
国や市町村にある情報を、主権者である国民が教えてもらう権利。
「情報公開制度」
国民の請求に応じて情報を公開する。
塗りつぶされた文書
個人情報×
誰かの不利益×

2. 【知らせてはいけない情報】
「プライバシーの権利」
他の人に知られたくないこと
(外見・思っていること・他の人との関係など)
「個人情報保護法」
▶ 情報化の進展：知らない間に個人情報が…
情報管理者が個人情報を厳重に管理する。

3. インターネットと人権 **話し合い**
(資料) インターネットでの人権侵害件数^①
個人情報の発信・デジタルタトゥー・SNSの炎上

きみたちはどう生きるか

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック (パフォーマンス評価)

尺度 (評点・レベル)	記述語
A (理想的)	「知る権利」と「プライバシーの権利」の違いが分かり、インターネットを通じた人権問題について、グループ協議の場面で交流した他の人の意見への評価をした結果、「自分ならどうするか」を表現することができている。
B (合格)	「知る権利」と「プライバシーの権利」の違いが分かり、インターネットを通じた人権問題について、思考ツールを用いて「自分はどうか」を表現することができている。
C (乗り越えさせたい実態)	「知る権利」と「プライバシーの権利」の違いを理解している。